

**2026年度(令和8年度)
日本大学大学院芸術学研究科
入学試験案内**



本案内は大学院芸術学研究科で実施する2026年度入学試験（外国人留学生入学試験・学部内選考入学試験・博士前期課程・後期課程一般入学試験・社会人入学試験）の概要を掲載しております。

実際の出願に係る詳細な内容（入学試験受験資格・出願書類等）に関しては、順次公開される試験区分ごとの「入学試験要項」をご確認ください。

2026年度入学試験 ⇒ 2025年度中に実施する、2026年4月入学希望者の入学試験

● 外国人留学生入学試験要項

2025年6月中旬頃 公開予定



日本大学ホームページHOME>
入学者選抜情報>
外国人留学生選抜情報

● 一般入学試験(前期・後期)・社会人(後期)

2025年8月下旬頃 公開予定



日本大学ホームページHOME>
入学者選抜情報>
大学院入学試験要項

※2025年5月現在は2025年度入学試験の情報が掲載されております

……………【2026年度(令和8年度)入学者からの変更点】……………

① 博士前期課程で取得できる学位の専攻分野の名称が追加されます(6ページ参照)

2026年度(令和8年度)博士前期課程入学試験出願時に各自の研究計画・研究内容等により、「制作・作品コース」又は「論文コース」を選択していただき、受講するカリキュラムおよび修了時に提出する学位(修士)論文又は制作・作品に応じて以下の、どちらかの学位を取得できるようになります。

- 「制作・作品(MFA)コース」にて、所定の単位を修得して、**修士制作・作品および副論文**を提出し、試験に合格した者には、**修士(芸術)=MFA: Master of Fine Arts**の学位が授与されます。
- 「論文(MA)コース」にて、所定の単位を修得して、**修士論文**を提出し、試験に合格した者には、**修士(芸術学)=MA: Master of Arts**の学位が授与されます。

- ※ 令和7年度以前入学者が取得できる学位は、修士(芸術学)=MA: Master of Artsのみとなります。
- ※ 博士後期課程で取得できる学位は、博士(芸術学)=DA: Doctor of Artsのみとなります。
- ※ 原則として、入学後にコースを変更することはできません。
- ※ 教員によって受入れ出来る研究指導コースが異なります。

② 受講できるカリキュラムが変更されます(20ページ~参照)

MFA科目群にアートビジネスと結びつく思考を探究し、加えてセルフプロデュース能力を養うための新たな科目を設置します。新たに時代のニーズに合った講義科目を追加いたします。

- ※ 令和7年度以前入学者はカリキュラムの変更はありません。
- ※ 博士後期課程ではカリキュラムの変更はありません。

—掲載内容について—

2025年5月現在の情報を掲載しています。
今後、内容に変更等が発生した場合には、日本大学芸術学部ホームページにてお知らせいたします。

日本大学学則及び教育研究上の基礎的な情報について

日本大学学則及び「入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)」・「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」・「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」等について、芸術学部ホームページでもお知らせしております。

<https://www.art.nihon-u.ac.jp/about/relations/>

※「学則等」については、ホームページ中程に記載があります。



目 次

本入学試験案内の期日は全て 2025 年度（2025 年 4 月～2026 年 3 月）となります

I 日本大学大学院芸術学研究科の教育方針

- 1 大学院芸術学研究科の紹介 2
- 2 教育研究上の目的
- 3 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）
- 4 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
- 5 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 3

II 2026年度（令和8年度）入学試験案内

- 1 募集人員 5
- 2 博士前期課程修了時に取得できる学位及び「論文コース」「制作・作品コース」の選択について 6
- 3 希望指導教授への事前連絡について
- 4 「日本語」能力に関する出願条件について（外国籍の方対象） 7
- 5 入学検定料
- 6 入学試験会場
- 7 出願にあたっての注意事項
- 8 試験期日等 8
- 9 試験科目 10
- 10 1次試験の概要 12
- 11 2次試験の概要 15
- 12 出願書類（全入学試験区分共通書類） 18

III 履修案内【2026年度（令和8年度）予定】

- 1 博士前期課程文芸学専攻 20
- 2 博士前期課程映像芸術専攻 21
- 3 博士前期課程造形芸術専攻 22
- 4 博士前期課程音楽芸術専攻 23
- 5 博士前期課程舞台芸術専攻 24
- 6 博士後期課程芸術専攻 26

IV 入学金・授業料等納入金、授業校舎について

- 1 2026 年度（令和 8 年度）入学者 入学金・授業料等納入金 27
- 2 2026 年度（令和 8 年度）大学院芸術学研究科入学者の授業校舎

V 2026年度（令和8年度）芸術学研究科研究指導教授一覧

- 1 博士前期課程 28
- 2 博士後期課程 29

I 日本大学大学院芸術学研究科の教育方針

1 大学院芸術学研究科の紹介

大学院芸術学研究科は、昭和26年に設置された文芸学専攻を基に、平成5年に映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の各専攻を増設し、芸術学部の全ての領域を網羅する総合芸術系大学院となりました。また、平成7年には博士後期課程芸術専攻を設置し、令和6年度修了時点で2,167名の者に修士の学位を、141名（課程修了による者126名、論文提出による者15名）の者に博士の学位を授与しており、高度な芸術研究の場として広く社会からも注目を集めています。

本研究科では、「自己の内なる興味」をもとに「自分なりのものの見方」で世界をとらえ、常識や既存の価値観にとらわれることなく柔軟に研究活動と創作活動を行うことができる研究者や幅広い実践活動を担うプロフェッショナルなアーティストを育成する専門教育を行います。

2 教育研究上の目的

時代とともに変化する芸術の現状を視野に置きながら、芸術の理論と歴史の研究で想像力を養い、併せて専門及び学際的課題を含む応用領域の研究を行う。専門分野の更なる研究と創作活動を行うとともに、隣接領域の芸術と触れ合い、広い視野をもって芸術を理解することで幅広い知識と技術を持った、社会における芸術活動に貢献し得る卓越した人材を養成する。

3 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

博士前期課程

本学の教育理念である「自主創造」に基づき、芸術の歴史と理論を学び、多様化する高度な表現を論理的かつ批判的に思考し、新たな芸術の研究・表現を創造できる人を求める。

博士後期課程（芸術専攻）

本学の教育理念である「自主創造」に基づき、芸術の豊かな知識・教養と倫理観を持ち、自ら研究課題を発見・解決する方法を思考し、自立した研究・創作活動に挑戦し、次代の芸術をリードする人を求める。

選考について

日本大学大学院芸術学研究科では、創造性を評価する。

論文（小論文）試験では論理性と発想力を審査する。実技・作品審査では技術と表現力を審査する。

外国語試験では各専攻において文献・論文研究に必要となる読解力を審査する。

口述試験では各専攻分野で芸術を学ぶための意欲、適性及び人間性を審査する。

4 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

日本大学大学院芸術学研究科では、日本大学教育憲章に基づき、「日本大学の目的及び使命」を理解し、「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」能力に基づく、芸術・文化全般に対して国際的視野を備え、本研究科の修了要件を満たした者に、学位を授与する。

博士前期課程では、研究活動を主題（論文コース）として、教育理念・目標に応じた高度で専門的な教育課程において所定の単位を取得し、個人の研究計画・研究内容に基づき修士論文を提出し、審査及び口述試験を経て、各研究分野における理論と歴史を専門的に探究する力を持ち、問題を自ら解決する

ために、芸術の研究と表現を磨き、その能力を社会に生かす姿勢を持つことができる者に、**修士（芸術学）＝ Master of Arts**の学位を授与する。

創作活動を主題（制作・作品コース）として、教育理念・目標に応じた高度で専門的な教育課程において所定の単位を取得し、個人の研究計画・研究内容に基づき修士制作・作品（演奏、上演を含む）を提出し、審査及び口述試験を経て、創作の先にあるアートビジネスと結びつく思考探究による自己プロデュース能力を養い、自身の創作活動に関連するリサーチの結果を副論文として提出することで、自身の作品を理論的に説明することができ、その能力を社会に生かす姿勢を持つことができる者に、**修士（芸術）＝ Master of Fine Arts**の学位を授与する。

学位が授与されるにあたり得べき学修成果は以下のとおりである。

- D P 1：各自の専門分野における高度で専門的な芸術理論・歴史の知識を身につける。
- D P 2：専門分野における高度な研究能力、論理的思考力および創造力を培い、自律的に研究を遂行できる能力と問題解決能力を身につける。
- D P 3：幅広い視野にたち、隣接芸術領域における関連する芸術理論・歴史の知識を身につける。
- D P 4：芸術の歴史のなかで各領域の果たしてきた役割と社会における意味を総合的に論考し、今日の芸術的状況を認識する能力を身につけるとともに、「アート思考」を養い、アートと社会の関係性を考え、専門的知識や技術を社会で応用し、新たな芸術創造と活動に貢献できる力を身につける。

博士後期課程では、芸術の研究者、創作者として自立するための高度な専門的知識と能力を身につけ、独力で新たな研究、創作の問題を見出し、解決させ、社会に貢献できるようになることが、課程修了の基準であり。博士論文を提出して最終試験及び口述試験を経て、所定の単位を取得した者に対して**博士（芸術学）＝ Doctor of Arts**の学位を授与する。

5 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

日本大学大学院芸術学研究科では、日本大学教育憲章に基づき、学位授与の方針に沿って教育課程を編成し実施する。

博士前期課程では、文芸学、映像芸術、造形芸術、音楽芸術、舞台芸術の5つの専攻を置き、21世紀の芸術が担う社会的先導性を身につけることを目標とする。基礎的素養と各専攻の専門知識を培うと同時に、専攻の壁を越えて学生の知的関心に応じるべく、相互に関連する広範囲の科目を配置し、修士論文・作品の研究を個別に指導する。憲章の8つの能力を養成するとともに、芸術分野の多岐にわたる授業科目を体系化し、講義・演習・実習・実技等の授業形態を組み入れた学修方法による教育課程を以下のとおり編成し、実施する。

- （1）主指導教授が担当する科目を1年次より2年間継続して履修し、修士論文・修士制作の作成のための指導を少人数制で実施する。
- （2）全専攻共通科目である「芸術学特論」では、芸術の歴史のなかで各領域の芸術の果たしてきた役割と社会における意味を総合的に論考して、今日の芸術的状況を認識することを目的としている。また、「リサーチ特殊研究」では論文作成の基本と原則を習得し資料収集の方法などの能力を養うことを目的とし、芸術の表現力と技術を身に付けつつ、修士論文執筆のための実践的な指導を実施する。
- （3）専攻ごとに芸術理論・歴史を専門的に探究する力を修得するための理論部門や、各自の専門研究における問題を自ら解決するための演習・実習部門を設置し科目を配置する。また、相互に関連

する他専攻の専門科目を履修する関連領域部門では、学生自身の専門領域に留まらない知的関心に応えられるようなカリキュラムを編成する。

博士後期課程では、博士前期課程での研究をさらに発展させるため、指導教員により、論文作成における多岐にわたるアドバイスを行うとともに、研究成果発表のプレゼンテーション能力を強化し、コースワークとリサーチワークを組み合わせた体系的な授業形態を組み入れ、学生自身が独力で問題設定から解決までできることを目指した教育課程を以下のとおり編成し、実施する。

- (1) 1年次より主指導教員が担当する「芸術研究特別演習」を中心にリサーチワークを実施して、実技能力や調査研究能力、研究理論を構築する能力に関する綿密な指導をとおして、学生自らが設定する研究内容を高次なものへと高め、博士論文の作成に向けた総合的かつ実践的な研究指導を実施する。
- (2) コースワークを充実させ、研究・創作の視野を広げ、幅広い学識を涵養するため、他領域の科目を履修するとともに、理論だけでなく作品制作等の表現をとおしての教育を実施する。また、「芸術学特殊研究」を必修科目として、芸術を学ぶ上で必要とされる芸術学や美学のほか様々な学問領域の歴史について理解する。
- (3) 博士論文提出までに1次予備試験、2次予備試験（中間発表）の2回の予備試験と博士論文提出の際の口頭発表をとおして、研究者・表現者として必要なプレゼンテーション能力を身に付けるとともに、指導教員以外の教員からの助言を受け博士論文を完成させる。

Ⅱ 2026 年度（令和 8 年度）入学試験案内

1 募集人員

博士前期課程

専攻	分野	外国人留学生入学試験	学部内選考入学試験	一般入学試験	社会人入学試験	募集人員
文芸学専攻		○	○	○	×	20名
映像芸術専攻	写真分野	○	○	○	×	20名
	映画分野					
	放送分野					
造形芸術専攻	絵画分野	○	○	○	×	15名
	版画分野					
	彫刻分野					
	造形理論分野					
	地域芸術分野					
	コミュニケーションデザイン分野					
	インダストリアルデザイン分野					
音楽芸術専攻	建築デザイン分野	○	○	○	×	10名
	作曲分野					
	声楽分野					
	器楽分野					
	音楽学分野					
	音楽教育分野					
舞台芸術専攻	情報音楽分野					
		○	○	○	×	10名

博士後期課程

専攻	分野	外国人留学生入学試験	学部内選考入学試験	一般入学試験	社会人入学試験	募集人員
芸術専攻		○	×	○	○	8名 (うち社会人3名)

○＝募集あり ×＝募集なし

《注意事項》

- 1) 全入学試験の合計募集人員です。
- 2) 入学試験の出願資格等の詳細は試験区分ごとの入学試験要項をご確認ください。
- 3) 同時に複数の専攻分野へ出願することは出来ません。
- 4) 学部内選考入学試験は2026年3月日本大学芸術学部卒業見込み者が受験できます
※学科は問わない
- 5) 博士後期課程の社会人入学試験を出願する場合、日本国内の公共機関、企業等に現に勤務しており、入学後も継続して勤務を続けることが必要となります。
- 6) 本学部在学学生・卒業生・修了生は「外国人留学生入学試験」を受験することは出来ません。
- 7) 本学部卒業生は学部内選考入学試験を受験することは出来ません。

2 博士前期課程修了時に取得できる学位及び「論文コース」「制作・作品コース」の選択について

令和8年度博士前期課程入学者より「制作・作品コース」において所定の単位を修得し、修士制作及び副論文を提出することで【修士（芸術）＝MFA（Master of Fine Arts）】の学位を取得できるようになります。（MFAについては芸術学研究科ホームページをご参照ください。）

なお、取得できる学位は「制作・作品コース」の場合は【修士（芸術）＝MFA（Master of Fine Arts）】、「論文コース」の場合は【修士（芸術学）＝MA（Master of Arts）】となります。

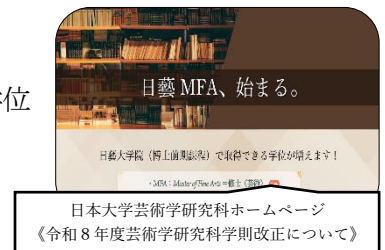
本研究科に「論文（MA）コース」で出願するか、「制作・作品（MFA）コース」で出願するかは、原則、事前連絡申込時に希望指導教授の選択と同時に決定し、入学試験に合格した場合は選択したコースに入学していただきます。

●修士（芸術）＝MFA：Master of Fine Arts

「制作・作品コース」にて、所定の単位を修得し、
修士制作・作品および副論文を提出し、試験に合格した者に与えられる学位

●修士（芸術学）＝MA：Master of Arts

「論文コース」にて、所定の単位を修得し、
修士論文を提出し、試験に合格した者に与えられる学位



※ 博士後期課程で取得できる学位は博士（芸術学）＝DA（Doctor of Arts）のみとなります。

3 希望指導教授への事前連絡について

大学院芸術学研究科へ出願する場合、博士前期課程・後期課程ともに出願前に希望指導教授への事前連絡（指導教授への研究内容の確認）が必要となります。

2026年度入学者の指導教授となれる教員は入学試験案内の28・29ページに一覧が掲載されておりますので、指導教授及び各教授の研究領域を芸術学研究科ホームページ (<https://nihon-ugsa.com/exam/>) より確認し、ご自身が希望する指導教授を決定してください。（指導教授一覧に掲載されていない教員は指導教授となれません）

希望指導教授が決まりましたら、受付期間内に専用の「事前連絡フォーム」より必要事項の入力、研究計画書をアップロードし、事前連絡をしてください。（同時に複数の教授に事前連絡することは出来ません）

なお、博士前期課程志願者に関しては、事前連絡申込時にご自身が「論文(MA)コース」で出願するか、「制作・作品(MFA)コース」で出願するかを選択していただきます。各指導教授の指導可能な分野・コースについては28ページをご確認ください。

希望する指導教授により研究内容等の確認が完了すると、研究科から志願者の方へ出願書類として提出が必要となる「事前連絡確認書」を交付します。「事前連絡確認書」の交付には時間を要する場合がありますので、期間に余裕を持って事前連絡をしてください。

また、事前連絡申込期間外の事前連絡をお受けすることは出来ませんので、必ず期間内にお申込みください。

各入学試験の事前連絡申込期間

- 外国人留学生入学試験_____2025(令和7)年7月7日(月) 10:00～7月18日(金) 17:00
- 学部内選考入学試験_____出願前に各自希望指導教授へ相談すること
- 博士前期課程一般入学試験_____2025(令和7)年11月7日(金) 10:00～11月14日(金) 17:00
- 博士後期課程一般・社会人入学試験_2025(令和7)年11月7日(金) 10:00～11月14日(金) 17:00

※ 事前連絡フォームのURLは芸術学研究科ホームページに掲載いたします。

4 「日本語」能力に関する出願条件について（外国籍の方対象）

※日本大学卒業（見込）、日本大学大学院修了（見込）生は除く

外国籍の志願者の方は、出願時に日本語能力に関する出願条件がありますのでご注意ください。

博士前期課程志願者

出願時に日本語能力試験（JLPT）において、「N 2 以上」に合格していること。

または、日本留学試験（EJU）において、2023 年 11 月、2024 年 6 月・11 月、2025 年 6 月のいずれかを受験し、「日本語（読解、聴解・聴読解）で 240 点以上」および「日本語（記述）で 35 点以上」を取得していること。

博士後期課程志願者

出願時に日本語能力試験（JLPT）において、「N 1」に合格していること。

または、日本留学試験（EJU）において、2023 年 11 月、2024 年 6 月・11 月、2025 年 6 月のいずれかを受験し、「日本語（読解、聴解・聴読解）で 280 点以上」および「日本語（記述）で 35 点以上」を取得していること。

※ 日本語能力に関する出願書類については、19 ページを確認してください。

※ 出願時に書類として本学が求める日本語要件の証明書が提出出来ない場合、出願をお受け出来ない場合がございますのでご注意ください。

※ 日本国外で日本語能力試験（JLPT）を受験し、出願期日までに証明書が提出できない場合も出願を受理できないことがあります。

5 入学検定料

入学検定料 35,000 円

※ 入学検定料の納入方法は各入学試験要項を参照してください。

※ いったん納入された入学検定料は原則返還いたしません。

6 入学試験会場

日本大学芸術学部（芸術学研究科）校舎

〒176-8525 東京都練馬区旭丘 2-42-1

（池袋より西武池袋線各駅停車にて江古田駅下車 北口より徒歩 1 分）

※ 1 次試験、2 次試験がある入学試験は 2 次試験のみ芸術学部校舎で実施いたします。

※ オンライン形式による入学試験は実施いたしません。

7 出願にあたっての注意事項

- 1) 出願にあたっては、必ず本研究科の入学受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を含む 3 つのポリシーをご確認ください。
- 2) 出願書類に不備があった場合は、原則として出願を受け付けません。
- 3) 出願書類・記載事項（提出作品）に不正や剽窃が認められた場合は、判明した時点での資格（出願・合格・入学）を取り消します。（証明書等の発行元に問い合わせることがあります）
- 4) いったん提出された出願書類及び納入された入学検定料は原則として返還しません。
- 5) 入学年度は原則として休学することは出来ませんので、ご承知の上で出願をご検討ください。
- 6) 身体の機能に著しい障害のある方は、受験及び就学が困難な場合もありますので、出願前のできるだけ早い時期に、必ず教務課大学院係へご相談ください。

（試験場への杖や補助器具の持ち込み・車椅子での受験・補聴器等の使用が必要な方も事前にご相談ください）

※試験期日は全て 2025 年度（2025 年 4 月～2026 年 3 月）となります

博士前期課程【文芸学専攻/映像芸術専攻/造形芸術専攻/音楽芸術専攻/舞台芸術専攻】

◆外国人留学生入学試験◆

入学試験要項配布	6 月中旬より日本大学ホームページにてダウンロード開始予定
事前連絡申込期間	7 月 7 日(月)～7 月 18 日(金)《専用フォームから受付》
出願締切日	9 月 9 日(火)《日本大学入試センターへ郵送必着》
1 次試験期日	書類・論文作品審査のため来校不要
1 次試験合格発表	10 月 28 日(火)《インターネットにより発表》
2 次試験期日	11 月 13 日(木)《芸術学部校舎で実施》
2 次試験合格発表	11 月 26 日(水)《インターネットにより発表》
入学手続期間	11 月 27 日(木)～1 月 16 日(金) ※ 二段階手続締切日＝3 月 11 日(水)

◆学部内選考入学試験◆

出願資格	2026 年 3 月 25 日に日本大学芸術学部を卒業予定の者(卒業見込みの者) ※学科は不問
入学試験要項等配布	9 月下旬より教務課窓口にて配布
出願期間	9 月 24 日(水)～10 月 16 日(木) ※教務課窓口へ提出
試験期日	11 月 13 日(木)
合格発表	11 月 26 日(水)
入学手続期間	2 月 19 日(木)～3 月 3 日(火)

◆一般入学試験◆

入学試験要項配布	8 月下旬より日本大学ホームページにてダウンロード開始予定
事前連絡申込期間	11 月 7 日(金)～11 月 14 日(金)《専用フォームから受付》
出願締切日	12 月 12 日(金)《日本大学芸術学部教務課大学院係へ郵送必着》
1 次試験期日	書類・論文作品審査のため来校不要
1 次試験合格発表	2 月 4 日(水)《速達郵便にて通知》
2 次試験期日	2 月 21 日(土)《芸術学部校舎で実施》
2 次試験合格発表	3 月 4 日(水)《速達郵便にて通知》
入学手続期間	3 月 5 日(木)～3 月 12 日(木)

博士後期課程【芸術専攻】

◆外国人留学生入学試験◆

入学試験要項配布	6月中旬より日本大学ホームページにてダウンロード開始予定
事前連絡申込期間	7月7日(月)～7月18日(金)《専用フォームから受付》
出願締切日	9月9日(火)《日本大学入試センターへ郵送必着》
1次試験期日	書類・論文作品審査のため来校不要
1次試験合格発表	10月28日(火)《インターネットにより発表》
2次試験期日	11月13日(木)《芸術学部校舎で実施》
2次試験合格発表	11月26日(水)《インターネットにより発表》
入学手続期間	11月27日(木)～1月16日(金) ※二段階手続締切日＝3月11日(水)

◆一般・社会人入学試験◆

入学試験要項配布	8月下旬より日本大学ホームページにてダウンロード開始予定
事前連絡申込期間	11月7日(金)～11月14日(金)《専用フォームから受付》
出願締切日	12月12日(金)《日本大学芸術学部へ郵送必着》
1次試験期日	書類・論文作品審査のため来校不要
1次試験合格発表	2月4日(水)《速達郵便にて通知》
2次試験期日	2月21日(土)《芸術学部校舎で実施》
2次試験合格発表	3月4日(水)《速達郵便にて通知》
入学手続期間	3月5日(木)～3月12日(木)

《試験期日等に関する注意事項》

- 1) 期日はすべて2025年度(2025年4月～2026年3月)となります。
- 2) 入学試験の出願資格等の詳細は各試験ごとの入学試験要項をご確認ください。
- 3) 1次試験と2次試験がある入学試験については、**1次試験合格者のみ2次試験を受験することができます。**
- 4) 外国人留学生入学試験の場合、合格者は入学申込金を納入することにより入学手続きを二段階で行うことができます。詳細は外国人留学生入学試験要項、及び合格後に案内される入学手続要項をよくご確認ください。

9 試験科目

① 外国人留学生入学試験（博士前期課程・後期課程）

専攻	試験科目
博士前期課程 文芸学	< 1 次試験 > ①書類審査 < 2 次試験 > ①日本語による小論文試験 ②日本語による口述試験
博士前期課程 映像芸術	< 1 次試験 > ①書類審査 ②論文または作品審査 < 2 次試験 > ①日本語による小論文試験 ②日本語による口述試験
博士前期課程 造形芸術	< 1 次試験 > ①書類審査【全分野】 ②論文または作品審査【全分野】 < 2 次試験 > ①日本語による小論文試験【コミュニケーションデザイン・インダ ストリアルデザイン・建築デザイン・造形理論・地域芸術分野】 ②実技試験【絵画・版画・彫刻分野】 ③日本語による口述試験【全分野】※1 参照
博士前期課程 音楽芸術	< 1 次試験 > ①書類審査【全分野】 ②論文または作品審査【作曲・音楽学・音楽教育分野】 < 2 次試験 > ①日本語による小論文試験【全分野】 ②実技試験【器楽・声楽・音楽学分野】 ③日本語による口述試験【全分野】
博士前期課程 舞台芸術	< 1 次試験 > ①書類審査 ②論文または作品・資料審査 < 2 次試験 > ①日本語による小論文試験 ②日本語による口述試験
博士後期課程 芸術専攻	< 1 次試験 > ①書類審査 ②論文または作品審査 < 2 次試験 > ①外国語試験※辞書参照可 （英語・独語・仏語・伊語・日本語のうち自国語を除く1か国語選択） ②日本語による論文試験 ③日本語による口述試験

※1 造形芸術専攻 2 次試験の「日本語による口述試験」について、絵画・版画・コミュニケーションデザイン・インダストリアルデザイン・建築デザイン分野出願者は別途提出いただく作品を用いて行います。

※2 外国人留学生入学試験における 1 次試験の概要に関して、博士前期課程志願者は 12～13 ページを、博士後期課程志願者は 14 ページを確認してください。2 次試験の概要に関しては 15 ページを確認してください。

② 学部内選考入学試験（博士前期課程）

試験期日	試験科目
博士前期課程 文芸学	①日本語による小論文試験 ②日本語による口述試験
博士前期課程 映像芸術	日本語による口述試験【全分野】
博士前期課程 造形芸術	①論文または作品審査【全分野】 ②日本語による口述試験【全分野】
博士前期課程 音楽芸術	①実技試験【声楽・器楽分野】 ②論文または作品審査【作曲・音楽学・音楽教育・情報音楽分野】 ③日本語による口述試験【全分野】
博士前期課程 舞台芸術	①論文または作品・資料審査 ②日本語による口述試験

③ 一般入学試験（博士前期課程）

専攻	試験科目
博士前期課程 文芸学	< 1 次試験 > ①書類審査 < 2 次試験 > ①外国語試験 （英語・独語・仏語・日本語のうち自国語を除く 1 か国語選択 ※辞書参照可） ②日本語による小論文試験 ③日本語による口述試験
博士前期課程 映像芸術	< 1 次試験 > ①書類審査 ②論文または作品審査 < 2 次試験 > ①外国語試験 （英語・独語・仏語・日本語のうち自国語を除く 1 か国語選択 ※辞書参照可） ②日本語による小論文試験 ③日本語による口述試験
博士前期課程 造形芸術	< 1 次試験 > ①書類審査【全分野】 ②論文または作品審査【全分野】 < 2 次試験 > ①外国語試験【造形理論分野】 （英語・独語・仏語・日本語のうち自国語を除く 1 か国語選択 ※辞書参照可） ②日本語による小論文試験【CD・ID・AD・造形理論・地域芸術分野】 ③実技試験【絵画・版画・彫刻分野】 ④日本語による口述試験【全分野】※1 参照
博士前期課程 音楽芸術	< 1 次試験 > ①書類審査【全分野】 ②論文または作品審査【作曲・音楽学・音楽教育分野】 < 2 次試験 > ①外国語試験【全分野】 （英語・独語・仏語・伊語・日本語のうち自国語を除く 1 か国語選択 ※辞書参照可） ②日本語による小論文試験【全分野】 ③実技試験【声楽・器楽・音楽学分野】 ④日本語による口述試験【全分野】
博士前期課程 舞台芸術	< 1 次試験 > ①書類審査 ②論文または作品・資料審査 < 2 次試験 > ①外国語試験 （英語・独語・仏語・日本語のうち自国語を除く 1 か国語選択 ※辞書参照可） ②日本語による小論文試験 ③日本語による口述試験

※1 造形芸術専攻 2 次試験の「日本語による口述試験」について、絵画・版画・コミュニケーションデザイン・インダストリアルデザイン・建築デザイン分野出願者は別途提出いただく作品を用いて行います。

④ 一般入学試験・社会人入学試験（博士後期課程）

試験期日	試験科目
博士後期課程 芸術専攻 （一般）	< 1 次試験 > ①書類審査 ②論文または作品審査 < 2 次試験 > ①外国語試験 （英語・独語・仏語・伊語・日本語のうち自国語を除く 1 か国語選択 ※辞書参照可） ②日本語による論文試験 ③日本語による口述試験
博士後期課程 芸術専攻 （社会人）	< 1 次試験 > ①書類審査 ②業績審査 < 2 次試験 > ①日本語による論文試験 ②日本語による口述試験

※ 一般入学試験における 1 次試験の概要に関して、博士前期課程志願者は 12～13 ページを、博士後期課程志願者・社会人入学試験志願者は 14 ページを確認してください。

※ 2 次試験の概要に関して、博士前期課程志願者は 16 ページを、博士後期課程志願者・社会人入学試験志願者は 17 ページを確認してください。

10 1次試験の概要（「論文または作品等審査」の詳細）

博士前期課程（外国人留学生入学試験・一般入学試験）

専攻	1 次試験における提出作品・論文の内容
文芸学	1 書類審査
映像芸術	1 書類審査 2 論文または作品審査 ◆以下①～⑤のいずれかを提出すること（注1 参照） ①～⑤は入学後の研究領域及びコース（論文コース，制作・作品コース）に属するものとする ① 写真作品 1 テーマ 20 点以上で，サイズ 8 インチ×10 インチあるいは A4 のポートフォリオ，または A4 以下のブックを合計 3 冊まで。 ② 映像作品 1 本で 30 分程度を原則とする。 （アニメーション，アート作品などで，連作や 1 本数分の短編の場合，複数の提出も可とする） ー提出作品については以下の要件を十分確認することー 1〕言語が日本語でない場合は日本語字幕スーパーをつけることが望ましい。それができない場合は，日本語による概要を添付すること。 2〕日本語によるスタッフ表（本人の担当を明記）を添付すること。 3〕DVD ビデオ・BD ビデオで提出する場合は，日本で再生できる方式・リージョンにすること。 4〕必ずファイナライズされたものを提出すること。 5〕フラッシュメモリー等でデータ提出する場合は，提出時の最新の Windows Media Player，または，QuickTime Player で再生できるものにすること。 6〕作品の分数，または音声チャンネル等の再生指定がある場合はその情報を明記すること。 ③ シナリオ作品（紙媒体で提出すること） ④ 音響作品 1〕ディスク，データで提出どちらでもかまわないが，映像作品に準じ日本で再生できるもの（特別な指示がある場合は明記すること） 2〕作品の分数を明記し，スタッフがいる場合はその表（本人の担当を明記）を添付すること ⑤ 論文（紙媒体で提出すること） 日本語又は英語による論文 ※日本語による 4,000 字程度の概要を添付すること
造形芸術	1 書類審査 2 論文または作品審査 ◆分野により定められている作品又は論文を提出すること（注1 参照） ① 絵画分野 絵画作品を撮影した写真をまとめたファイル（ポートフォリオ） 1 冊 ② 版画分野 版画作品を撮影した写真をまとめたファイル（ポートフォリオ） 1 冊 ③ 彫刻分野 彫刻作品を撮影した写真をまとめたファイル（ポートフォリオ） 1 冊 ④ コミュニケーションデザイン分野 大学院の研究につながる 3 点の作品について片面印刷 6 枚以内で簡潔にまとめたポートフォリオ 1 冊 ⑤ インダストリアルデザイン分野 大学院の研究につながる 3 点の作品について片面印刷 6 枚以内で簡潔にまとめたポートフォリオ 1 冊 ⑥ 建築デザイン分野 大学院の研究につながる 3 点の作品について片面印刷 6 枚以内で簡潔にまとめたポートフォリオ 1 冊 ⑦ 造形理論分野 日本語による論文 ※概要を添付すること ⑧ 地域芸術分野 日本語による論文 ※概要を添付すること または 作品を撮影した写真をまとめたファイル（ポートフォリオ） 1 冊

専攻	1 次試験における提出作品・論文の内容
音楽芸術	1 書類審査 2 論文または作品審査【作曲・音楽学・音楽教育のみ】 ◆分野により定められている作品又は論文を提出すること（注1参照） ① 作曲分野 自作品の楽譜（2点を限度とする。編成や長さは問わない。録音CDを添付することも可） ② 音楽学分野 日本語による音楽系の論文またはレポート（2点を限度とする。長さは問わない） ③ 音楽教育分野 日本語による音楽教育に関連する論文1本（卒業論文を含む）またはレポート2点（授業等で提出済みのもの）
舞台芸術	1 書類審査 2 論文または作品・資料審査 ◆次のいずれかを提出すること（注1参照） ①～④は入学後の研究領域及びコース（論文コース、制作・作品コース）に属するものとする ① 映像資料 【本人の出演・創舞・演出に該当する場合のみ】 ビデオテープ・DVD・BD（日本国内で一般的に再生可能なものに限る）等の舞台映像資料 1）映像資料は1本とする 2）チラシまたはパンフレットの写し等、必ず本人の担当や名前などが明記されているものを添付すること 3）DVD・BDはファイナライズしておくこと ② 戯曲 舞台用に本人が創作した戯曲 戯曲は1本とし、実際に舞台上演されたもの、または戯曲集やそれに相当する媒体に掲載されたもの 1）舞台上演されたものは実際に使用した台本（チラシまたはパンフレットも添付）を提出すること 2）戯曲集など書籍収録の場合は、実物またはコピーを提出すること。その場合は、必ず表紙・目次・奥付も添付すること ③ 舞台資料 今までに関わった舞台等（3作品を限度とする）の「ポートフォリオ（舞台資料）」 ④ 論文 日本語による論文 ※概要を添付すること

《注意事項》

- 1) 「論文コース」へ出願する場合は「論文」を、「制作・作品コース」へ出願する場合は「作品」を提出することを推奨いたします。
- 2) 1次試験において審査対象となる作品・論文等は各入学試験区分の出願締切日までに、芸術学部教務課大学院係へご提出いただきます。（詳細は試験区分ごとの入学試験要項に記載）
- 3) 作品・論文等の提出には、本人が作成したものであることを証明する「提出作品・論文等証明書」（所定用紙）の添付が必要になります。「提出作品・論文等証明書」の様式は入学試験要項と同時に公開いたします。
- 4) 1次試験のために提出された論文・作品は1次試験合格発表日後、指定の期日までに申し出のあった方のみ返却いたします。（1次試験合格者は2次試験受験時に返却いたします）

博士後期課程（外国人留学生入学試験，一般入学試験，社会人入学試験）

試験区分	1 次試験における提出作品・論文の内容
外国人留学生及び一般	1 書類審査 2 論文または作品審査 ◆次のいずれかを提出すること ① 論文の場合 日本語による論文（大学院博士前期(修士)課程修了時の修士論文も可） ※日本語による 4,000 字の概要を添付すること ② 作品の場合（修了作品等で副論文がある場合は添付すること） (1) 写真作品 1 テーマ 20 点以上のプリント（サイズは 8 インチ×10 インチ判あるいは A4 判以上）を台紙に貼付すること。B/W, カラーいずれも可 (2) 映像作品 提出作品は 1 本で 30 分程度を原則とする。 (アニメーション, アート作品などで, 連作や 1 本数分の短編の場合, 複数の提出も可とする) 提出作品については以下の要件を十分確認すること。 1) 言語が日本語でない場合は日本語字幕スーパーをつけることが望ましい。それができない場合は, 日本語による概要を添付すること。 2) 日本語によるスタッフ表（本人の担当を明記）を添付すること。 3) DVD ビデオ・BD ビデオで提出する場合は, 日本で再生できる方式・リージョンにすること。 4) 必ずファイナライズされたものを提出すること。 5) フラッシュメモリー等でデータ提出する場合は, 提出時の最新の Windows Media Player, または, QuickTime Player で再生できるものにすること。 6) 作品の分数, または音声チャンネル等の再生指定がある場合はその情報を明記すること。 (3) 絵画 絵画作品を撮影した写真をまとめたファイル（ポートフォリオ）1 冊 (4) 版画 版画作品を撮影した写真をまとめたファイル（ポートフォリオ）1 冊 (5) 彫刻 彫刻作品を撮影した写真をまとめたファイル（ポートフォリオ）1 冊 (6) コミュニケーションデザイン・インダストリアルデザイン・建築デザイン 修了制作を含むポートフォリオ 1 冊 (7) 地域芸術関連作品 作品を撮影した写真をまとめたファイル（ポートフォリオ）1 冊 (8) 作曲 作曲の場合は作品 2 点以上の楽譜（そのうち 1 点は音源 CD）を提出 (9) 演奏 演奏の場合は演奏を録音した CD（声楽は 30 分程度, 器楽は 40 分程度）を提出
社会人	上記論文・作品いずれかに加え, ◆研究業績報告書《所定用紙》 場合により業績現物の提出を求めることもある

《注意事項》

- 1 次試験において審査対象となる作品・論文等は各入学試験区分の出願締切日までに, 芸術学部教務課大学院係へご提出いただきます。（詳細は試験区分ごとの入学試験要項に記載）
- 作品・論文等の提出には, 本人が作成したものであることを証明する「提出作品・論文等証明書」（所定用紙）の添付が必要になります。「提出作品・論文等証明書」の様式は入学試験要項と同時に公開いたします。
- 1 次試験のために提出された論文・作品は 1 次試験合格発表日後, 指定の期日までに申し出のあった方のみに返却いたします。（1 次試験合格者は 2 次試験受験時に返却します）

⚠ 2次試験は1次試験の合格者のみ受験が可能です。

CD⇒ コミュニケーションデザイン分野
ID⇒ インダストリアルデザイン分野
AD⇒ 建築デザイン分野

① 外国人留学生入学試験（博士前期課程）

専攻	2次試験の内容
文芸学	1 日本語による小論文試験（60 分） 試験当日に与えられたテーマで記述する 2 日本語による口述試験
映像芸術	1 日本語による小論文試験（80 分） 試験当日に与えられたテーマで記述する 2 日本語による口述試験
造形芸術	1 日本語による小論文試験【CD・ID・AD・造形理論・地域芸術分野】 CD・ID・AD分野：90 分 造形理論分野：80 分 地域芸術分野：60 分 試験当日に与えられたテーマで記述する 2 実技試験【絵画・版画・彫刻分野】 ① 絵画分野・版画分野 デッサン 120 分 ② 彫刻分野 デッサン 180 分 3 日本語による口述試験【全分野】 絵画・版画・CD・ID・AD分野は別途提出する作品を用いて行う ※P17, 3) 参照 絵画分野：絵画作品 50 号以上 3 点 版画分野：版画作品 5 点以上 CD・ID・AD分野： 自由にまとめてブックの形に仕上げたポートフォリオ 1 点に加え、平面系デザインの場合はグラフィック作品、立体系デザインの場合はモックアップや模型など数点
音楽芸術	1 日本語による小論文試験（60 分）【全分野】 専攻分野にかかわる研究テーマをあらかじめ各自設定し、記述する 2 実技試験【声楽・器楽・音楽学分野】 ① 声楽分野 任意の声楽曲（計 10 分以上 20 分以内。暗譜） ② 器楽分野 各自の専攻する器楽曲（計 10 分以上 20 分以内。暗譜） ※ピアノ以外の楽器で受験する場合は、事前に問い合わせること ③ 音楽学分野 任意の楽器（声を含む）の演奏（3 分程度以上。暗譜の必要はない） 3 日本語による口述試験【全分野】
舞台芸術	1 日本語による小論文試験（60 分） 試験当日に与えられたテーマで記述する 2 日本語による口述試験

② 外国人留学生入学試験（博士後期課程）

専攻	2次試験の内容
芸術	1 外国語試験（60 分） 英語・独語・仏語・伊語・日本語のうち自国語を除く 1 か国語選択 ※辞書参照可 2 日本語による論文試験（90 分） 試験当日に与えられたテーマで記述する 3 日本語による口述試験

③ 一般入学試験（博士前期課程）

専攻	2次試験の内容
文芸学	1 外国語試験（60 分） 英語・独語・仏語・日本語のうち自国語を除く 1 か国語選択 ※辞書参照可 2 日本語による小論文試験（60 分） 試験当日に与えられたテーマで記述する 3 日本語による口述試験
映像芸術	1 外国語試験【全分野】（60 分） 英語・独語・仏語・日本語のうち自国語を除く 1 か国語選択 ※辞書参照可 2 日本語による小論文試験【全分野】（80 分） 試験当日に与えられたテーマで記述する 3 日本語による口述試験【全分野】
造形芸術	1 外国語試験【造形理論分野】（60 分） 英語・独語・仏語・日本語のうち自国語を除く 1 か国語選択 ※辞書参照可 2 日本語による小論文試験【CD・ID・AD・造形理論・地域芸術分野】 CD・ID・AD分野：90 分 造形理論分野：80 分 地域芸術分野：60 分 試験当日に与えられたテーマで記述する 3 実技試験【絵画・版画・彫刻分野】 ① 絵画・版画分野 デッサン 120 分 ② 彫刻分野 デッサン 180 分 4 日本語による口述試験【全分野】 絵画・版画・CD・ID・AD分野は別途提出する作品を用いて行う。※P17, 3)参照 絵画分野：絵画作品 50 号以上 3 点 版画分野：版画作品 5 点以上 CD・ID・AD分野： 自由にまとめてブックの形に仕上げたポートフォリオ 1 点に加え、平面系デザインの場合はグラフィック作品、立体系デザインの場合はモックアップや模型など数点
音楽芸術	1 外国語試験【全分野】（60 分） 英語・独語・仏語・伊語・日本語のうち自国語を除く 1 か国語選択 ※辞書参照可 2 日本語による小論文試験【全分野】（60 分） 専攻分野にかかわる研究テーマをあらかじめ各自設定し、記述する 3 実技試験【声楽・器楽・音楽学分野】 ① 声楽分野 任意の声楽曲（計 10 分以上 20 分以内。暗譜） ② 器楽分野 各自の専攻する器楽曲（計 10 分以上 20 分以内。暗譜） ※ピアノ以外の楽器で受験する場合は、事前に問い合わせること ③ 音楽学分野 任意の楽器（声を含む）の演奏（3 分程度以上。暗譜の必要はない） 4 日本語による口述試験【全分野】
舞台芸術	1 外国語試験（60 分） 英語・独語・仏語・日本語のうち自国語を除く 1 か国語選択 ※辞書参照可 2 日本語による小論文試験（60 分） 試験当日に与えられたテーマで記述する 3 日本語による口述試験

④ 一般入学試験・社会人入学試験（博士後期課程）

専攻	2次試験の内容
芸術 (一般)	1 外国語試験（60 分） 英語・独語・仏語・伊語・日本語のうち自国語を除く 1 か国語選択 ※辞書参照可 2 日本語による論文試験（90 分） 試験当日に与えられたテーマで記述する 3 日本語による口述試験
芸術 (社会人)	1 日本語による論文試験（90 分） 試験当日に与えられたテーマで記述する 2 日本語による口述試験

《注意事項》

- 1) 2次試験は1次試験の合格者のみ受験出来ます。
- 2) 2次試験は芸術学部（芸術学研究科）の校舎で実施いたします。
- 3) 博士前期課程造形芸術専攻（絵画・版画・CD・ID・AD分野）の口述試験で用いる提出作品について、提出期日や提出方法等の詳細は1次試験可否結果通知時に1次試験合格者へお知らせいたします。
- 4) 2次試験における口述試験のために提出いただいた作品は2次試験終了後にご返却いたします。
- 5) 小論文試験・論文試験ともテーマ・字数等は原則として試験時に指示いたします。
- 6) 小論文・論文試験ともにすべて辞書参照不可です。
- 7) 「外国語試験」において、辞書参照可とする場合の辞書は書籍辞書のみとし、電子辞書は不可です。
- 8) 過去3年分の小論文・論文試験課題を公開しています。閲覧希望の場合は日本大学芸術学部教務課大学院係へ閲覧希望専攻を連絡してください。

12 出願書類(全入学試験区分共通書類)

以下の書類は、外国人留学生入学試験・一般入学試験・社会人入学試験いずれの試験においても出願時に提出が必要となります。

以下の書類以外にも入学試験ごとに提出が必要となる書類があります。詳細は順次公開されるそれぞれの入学試験要項をご確認ください。

① 全専攻分野で必要

- 卒業(見込)証明書(原本)(後期課程出願者は修了(見込)証明書)
- 成績証明書(原本)

} P19「④証明書に関する留意事項」参照

② 出願する専攻・志願者により必要

博士前期課程

専攻	志願者区分	審査のための 作品または論文	提出作品・論文等証明書 3)を参照	研究計画書	事前連絡 確認書 研究科より交付
文芸学専攻 音楽芸術専攻 (声楽/器楽/情報音楽分野)	他大学・日本大学他学部 卒業見込者及び卒業生	×	×	○	○
	芸術学部卒業生	×	×	○	○
	芸術学部卒業見込者	×	×	○	×
映像芸術専攻 造形芸術専攻 音楽芸術専攻 (作曲/音楽学分野) 舞台芸術専攻	他大学・日本大学他学部 卒業見込者及び卒業生	○	○	○	○
	芸術学部卒業生	○	△	○	○
	芸術学部卒業見込者	○	△	○	×

博士後期課程

専攻	志願者区分	審査のための 作品または論文	提出作品・論文等証明書 3)を参照	研究計画書	事前連絡 確認書 研究科より交付
芸術専攻	他大学院・日本大学他研究科 修了見込者及び修了者	○	○	○	○
	芸術学研究科修了者	○	△	○	○
	芸術学研究科修了見込者	○	△	○	×

○=必要 ×=不要 △=「提出作品・論文等証明書」を「提出作品届」(所定用紙)に代えることが出来る

- 1) 二重線内は、本研究科所定用紙で作成いただきます。(所定用紙は入学試験ごとの入学試験要項と同時に公開されます)
- 2) 研究計画書は入学試験区分により所定用紙が異なります。
- 3) 審査のための提出作品・論文等については提出する作品・論文等が自己のものであることの証明書を提出していただきます。証明者は原則として在籍又は出身校の指導教授またこれに準ずる人としします。(日本語学校や専門学校に通っている者はその学校の教員の証明も可。家族・友人は不可)
- 4) 「事前連絡確認書」は事前連絡により希望指導教授や研究内容等の完了が確認でき次第、研究科から志願者へ交付いたします。
- 5) 博士前期課程音楽芸術専攻の実技試験実施分野(声楽, 器楽, 音楽学)の志願者は、上記の志願者区分に関わらず入学試験実技曲目届出書(所定用紙)を提出してください。
- 6) 博士後期課程芸術専攻社会人入試志願者は、「研究業績報告書(所定用紙)」「勤務先所属長の推薦書」の2点を加えて提出してください。

③ 日本語能力に関する出願書類の提出について

日本国籍以外の志願者は以下の書類の提出が必要となります。※日本大学、日本大学大学院卒業・修了(見込)生は除く
出願において必要な基準に関しては、7 ページをご確認ください。

● 日本語能力検定 (JLPT) で出願する場合

「日本語能力試験認定結果及び成績に関する証明書」の原本又はコピー

※ 日本語能力試験の Web サイトから発行申請してください。

※ 「合否結果通知書」及び「日本語能力認定書」は出願書類として受理できません。

● 日本留学生試験 (EJU) で出願する場合

- ・ 日本留学試験の「成績確認書」(EJU の Web サイトより出力可)
 - ・ 成績通知書のコピー
- } いずれか 1 点

※ 複数回受験している場合は利用可能な実施回のうち、いずれか 1 回のみ提出すること。

④ 証明書に関する留意事項

【卒業・修了 (見込) 証明書】

- 1) 卒業・修了(見込)証明書は出身大学が発行した証明書原本を提出してください。
- 2) 卒業・修了証明書の発行期限は問いませんが、卒業・修了見込証明書は出願前 3 ヶ月以内に発行したものを提出してください。

【成績証明書】

- 1) 出身大学(大学院)が発行した証明書原本を提出してください。 (「CHSI」「CSSD」等から発行された証明書等は不可)
- 2) 出身大学(大学院)在学中の全学年分の成績が記載されたものを提出してください。
※ 履修状況等により、全学年分の成績が記載されない場合は、その理由を成績証明書に記載してください。成績証明書にその理由が記載されない場合は、出身学校からそれらのことを証明する書類 (原本) を別途提出してください。
※ 出願書類の証明書に関する条件は入学試験により異なる場合がありますので、詳細は各入学試験の試験要項をご確認ください。

【その他】

- 1) 自身で印刷が出来るインターネットやデータ出力による証明書 (公印やサインが印刷されたもの) は原則証明書原本として受理できません。
- 2) 証明書の原本が提出できない場合は、certified true copy を提出してください。
certified true copy …
原本から正しく複製されたものであることを、出身学校、大使館、総領事館等の公的機関が証明したもの。(日本語学校・翻訳会社は含まれません。)
(注) 出身学校で証明をもらう場合は、必ず学校の公印が押されたものを提出してください。証明書が複数ページにわたる場合は、全てのページにおいて必要です。
- 3) 証明書類は、日本語又は英語で作成されたものを提出してください。
それ以外の言語で作成されたものを提出する場合は、日本語又は英語の翻訳文を添付し、大使館、総領事館等の公的機関による翻訳証明を提出してください。
なお、日本語学校・翻訳会社 (法人によるものに限る) 等での翻訳証明も認めますが、必ず翻訳責任者の氏名が記載され、学校・会社等の公印が押されたものを提出してください。
- 4) 証明書及び志願者本人が記入する出願書類の氏名や生年月日等は、パスポートの記載と同じものを提出してください。やむを得ない理由で証明書の氏名や生年月日等がパスポートの記載と異なる場合は、大使館等の公的機関で同一人であることの証明を受けた上、その証明書を提出してください。

Ⅲ 履修案内【2026年度（令和8年度）予定】

※ カリキュラム・授業科目・修了要件は事情により変更される場合があります。

※ 年度により開講されない科目がある場合があります。

1 文芸学専攻

科目名	単位数	科目名	単位数
【A：理論部門】		【C：関連領域部門】	
文芸学特論Ⅰ	2	芸術学特論	④
文芸学特論Ⅱ	2	リサーチ特殊研究Ⅰ	2
文芸学特論Ⅲ	2	リサーチ特殊研究Ⅱ	2
文芸学特論Ⅳ	2	映画史特論Ⅰ	2
哲学特論Ⅰ	2	映画史特論Ⅱ	2
哲学特論Ⅱ	2	放送史特論Ⅰ	2
芸術心理学特論Ⅰ	2	放送史特論Ⅱ	2
芸術心理学特論Ⅱ	2	日本美術史特論Ⅰ	2
文芸情報学特論Ⅰ	2	日本美術史特論Ⅱ	2
文芸情報学特論Ⅱ	2	西洋美術史特論Ⅰ	2
マスコミュニケーション論Ⅰ	2	西洋美術史特論Ⅱ	2
マスコミュニケーション論Ⅱ	2	西洋音楽史特論Ⅰ	2
メディア論Ⅰ	2	西洋音楽史特論Ⅱ	2
メディア論Ⅱ	2	演劇学特論Ⅰ	2
文芸史特論Ⅰ	2	演劇学特論Ⅱ	2
文芸史特論Ⅱ	2	デジタル特論Ⅰ	2
芸術社会学特論Ⅰ	2	デジタル特論Ⅱ	2
芸術社会学特論Ⅱ	2	東洋美術史特論	2
文芸表現特論Ⅰ	2	工芸史特論	2
文芸表現特論Ⅱ	2	建築史特論	2
文芸文献原典講読Ⅰ	2	現代美術特論	2
文芸文献原典講読Ⅱ	2	音響心理学特論Ⅰ	2
		音響心理学特論Ⅱ	2
【B：研究・創作部門】		【D：連携研究部門】	
外国文芸特殊研究A	2	連携理論研究Ⅰ・Ⅱ	各2
外国文芸特殊研究B	2	連携表現研究Ⅰ・Ⅱ	各2
日本文芸特殊研究A	2		
日本文芸特殊研究B	2		
文芸創作特殊研究A	2		
文芸創作特殊研究B	2		
外国文芸特論Ⅰ	4	【E：アート思考科目部門】	
外国文芸特論Ⅱ	4	アート思考特論	④
日本文芸特論Ⅰ	4	アート思考論Ⅰ	2
日本文芸特論Ⅱ	4	アート思考論Ⅱ	2
文芸創作特論Ⅰ	4	アート思考研究Ⅰ	1
文芸創作特論Ⅱ	4	アート思考研究Ⅱ	1
		アート思考研究Ⅲ	1
		アート思考研究Ⅳ	1
		アート思考研究Ⅴ	1

このうちから
指導教員が担
当する4単位
を修得しなけ
ればならない

○修了要件○

論文コース

以下の要件を満たした場合、修了時に修士（芸術学）＝Master of Arts（MA）の学位が授与されます。

- ① 2年以上在学し、上記科目のうちから「芸術学特論（4単位）」含む30単位以上修得する
- ② 修士論文（40,000字以上）を提出する。論文の要旨（600字）を付けること

制作・作品コース

以下の要件を満たした場合、修了時に修士（芸術）＝Master of Fine Arts（MFA）の学位が授与されます。

- ① 2年以上在学し、上記科目のうちから30単位以上を修得する
- ② 「アート思考特論（4単位）」を含むアート思考科目部門の中から8単位以上を修得する
- ③ 作品（40,000字以上）及び副論文（12,000字以上）を提出する

※ 作品・副論文それぞれに要旨（600字）を添付する

2 映像芸術専攻

科目名	単位数
【A：理論部門】	
映像特論Ⅰ	2
映像特論Ⅱ	2
写真史特論Ⅰ	2
写真史特論Ⅱ	2
映画史特論Ⅰ	2
映画史特論Ⅱ	2
放送史特論Ⅰ	2
放送史特論Ⅱ	2
映像技術特論Ⅰ	2
映像技術特論Ⅱ	2
映像音響特論Ⅰ	2
映像音響特論Ⅱ	2
デジタル特論Ⅰ	2
デジタル特論Ⅱ	2
映像文献原典講読Ⅰ	2
映像文献原典講読Ⅱ	2
【B：演習・実習部門】	
映像表現研究ⅠA	2
映像表現研究ⅠB	2
写真特殊研究ⅠA	2
写真特殊研究ⅠB	2
映画特殊研究ⅠA	2
映画特殊研究ⅠB	2
放送特殊研究ⅠA	2
放送特殊研究ⅠB	2
映像メディア特殊研究ⅠA	2
映像メディア特殊研究ⅠB	2
映像作品特殊研究ⅠA	2
映像作品特殊研究ⅠB	2
映像技術特殊研究ⅠA	2
映像技術特殊研究ⅠB	2
映像表現研究Ⅱ	2
写真特殊研究Ⅱ	2
映画特殊研究Ⅱ	2
放送特殊研究Ⅱ	2
映像メディア特殊研究Ⅱ	2
映像作品特殊研究Ⅱ	2
映像技術特殊研究Ⅱ	2
映像構成研究	2
音響作品特殊研究	2
【E：アート思考科目部門】	
アート思考特論	④
アート思考論Ⅰ	2
アート思考論Ⅱ	2
アート思考研究Ⅰ	1
アート思考研究Ⅱ	1
アート思考研究Ⅲ	1
アート思考研究Ⅳ	1
アート思考研究Ⅴ	1

このうちから
指導教員が担
当する4単位
を修得しなけ
ればならない

科目名	単位数
【C：関連領域部門】	
芸術学特論	④
リサーチ特殊研究Ⅰ	2
リサーチ特殊研究Ⅱ	2
文芸学特論Ⅰ	2
文芸学特論Ⅱ	2
文芸学特論Ⅲ	2
文芸学特論Ⅳ	2
哲学特論Ⅰ	2
哲学特論Ⅱ	2
芸術心理学特論Ⅰ	2
芸術心理学特論Ⅱ	2
文芸情報学特論Ⅰ	2
文芸情報学特論Ⅱ	2
マスコミュニケーション論Ⅰ	2
マスコミュニケーション論Ⅱ	2
メディア論Ⅰ	2
メディア論Ⅱ	2
文芸史特論Ⅰ	2
文芸史特論Ⅱ	2
芸術社会学特論Ⅰ	2
芸術社会学特論Ⅱ	2
造形特論Ⅰ	2
造形特論Ⅱ	2
デザイン史特論Ⅰ	2
デザイン史特論Ⅱ	2
建築史特論	2
日本美術史特論Ⅰ	2
日本美術史特論Ⅱ	2
西洋美術史特論Ⅰ	2
西洋美術史特論Ⅱ	2
音楽芸術特論Ⅰ	2
音楽芸術特論Ⅱ	2
音楽芸術特論Ⅲ	2
音楽芸術特論Ⅳ	2
西洋音楽史特論Ⅰ	2
西洋音楽史特論Ⅱ	2
情報音楽特論Ⅰ	2
情報音楽特論Ⅱ	2
演劇学特論Ⅰ	2
演劇学特論Ⅱ	2
芸能学特論Ⅰ	2
芸能学特論Ⅱ	2
舞踊学特論Ⅰ	2
舞踊学特論Ⅱ	2
演劇学特論Ⅲ	2
演劇学特論Ⅳ	2
東洋美術史特論	2
工芸史特論	2
現代美術特論	2
音響心理学特論Ⅰ	2
音響心理学特論Ⅱ	2
【D：連携研究部門】	
連携理論研究Ⅰ・Ⅱ	各2
連携表現研究Ⅰ・Ⅱ	各2

○修了要件○

論文コース

以下の要件を満たした場合、修了時に修士（芸術学）＝Master of Arts（MA）の学位が授与されます。

- ① 2年以上在学し、上記科目のうちから「芸術学特論（4単位）」含む30単位以上修得する
- ② 修士論文（40,000字以上）を提出する

制作・作品コース

以下の要件を満たした場合、修了時に修士（芸術）＝Master of Fine Arts（MFA）の学位が授与されます。

- ① 2年以上在学し、上記科目のうちから30単位以上を修得する
- ② 「アート思考特論（4単位）」を含むアート思考科目部門の中から8単位以上を修得する
- ③ 作品及び副論文（12,000字以上）を提出する ※ 作品についての詳細はp25を参照してください。

3 造形芸術専攻

科目名	単位数	科目名	単位数
【A：理論部門】		【C：関連領域部門】	
造形特論Ⅰ	2	芸術学特論	④
造形特論Ⅱ	2	リサーチ特殊研究Ⅰ	2
日本美術史特論Ⅰ	2	リサーチ特殊研究Ⅱ	2
日本美術史特論Ⅱ	2	文芸学特論Ⅰ	2
西洋美術史特論Ⅰ	2	文芸学特論Ⅱ	2
西洋美術史特論Ⅱ	2	哲学特論Ⅰ	2
デザイン史特論Ⅰ	2	哲学特論Ⅱ	2
デザイン史特論Ⅱ	2	文芸情報学特論Ⅰ	2
東洋美術史特論	2	文芸情報学特論Ⅱ	2
工芸史特論	2	映像特論Ⅰ	2
建築史特論	2	映像特論Ⅱ	2
現代美術特論	2	写真史特論Ⅰ	2
美術教育研究Ⅰ	2	写真史特論Ⅱ	2
美術教育研究Ⅱ	2	映画史特論Ⅰ	2
造形文献原典講読Ⅰ	2	映画史特論Ⅱ	2
造形文献原典講読Ⅱ	2	放送史特論Ⅰ	2
【B：演習・実習部門】		放送史特論Ⅱ	2
造形芸術研究ⅠA	2	音楽芸術特論Ⅰ	2
造形芸術研究ⅠB	2	音楽芸術特論Ⅱ	2
造形理論研究ⅠA	2	西洋音楽史特論Ⅰ	2
造形理論研究ⅠB	2	西洋音楽史特論Ⅱ	2
造形芸術研究Ⅱ	2	情報音楽特論Ⅰ	2
造形理論研究Ⅱ	2	情報音楽特論Ⅱ	2
美術特殊研究Ⅰ	2	演劇学特論Ⅰ	2
美術特殊研究Ⅱ	2	演劇学特論Ⅱ	2
美術特殊研究Ⅲ	2	芸能学特論Ⅰ	2
美術特殊研究Ⅳ	2	芸能学特論Ⅱ	2
美術特殊研究Ⅴ	2	演劇学特論Ⅲ	2
美術特殊研究Ⅵ	2	演劇学特論Ⅳ	2
美術特殊研究Ⅶ	2	芸術心理学特論Ⅰ	2
美術特殊研究Ⅷ	2	芸術心理学特論Ⅱ	2
デザイン特殊研究Ⅰ	2	芸術社会学特論Ⅰ	2
デザイン特殊研究Ⅱ	2	芸術社会学特論Ⅱ	2
デザイン特殊研究Ⅲ	2	デジタル特論Ⅰ	2
デザイン特殊研究Ⅳ	2	デジタル特論Ⅱ	2
美術作品研究Ⅰ	2	音響心理学特論Ⅰ	2
美術作品研究Ⅱ	2	音響心理学特論Ⅱ	2
美術作品研究Ⅲ	2	【D：連携研究部門】	
美術作品研究Ⅳ	2	連携理論研究Ⅰ・Ⅱ	各2
美術作品研究Ⅴ	2	連携表現研究Ⅰ・Ⅱ	各2
美術作品研究Ⅵ	2	【E：アート思考科目部門】	
美術作品研究Ⅶ	2	アート思考特論	④
美術作品研究Ⅷ	2	アート思考論Ⅰ	2
デザイン作品研究Ⅰ	2	アート思考論Ⅱ	2
デザイン作品研究Ⅱ	2	アート思考研究Ⅰ	1
デザイン作品研究Ⅲ	2	アート思考研究Ⅱ	1
デザイン作品研究Ⅳ	2	アート思考研究Ⅲ	1
アートプロジェクト研究	2	アート思考研究Ⅳ	1
デザイン実務研究	4	アート思考研究Ⅴ	1

※ デザイン実務研究は修了に必要な単位数に算出されない

○修了要件○

論文コース

以下の要件を満たした場合、修了時に修士（芸術学）＝Master of Arts（MA）の学位が授与されます。

- ① 2年以上在学し、上記科目のうちから「芸術学特論（4単位）」含む30単位以上修得する
- ② 修士論文（80,000字以上）を提出する

制作・作品コース

以下の要件を満たした場合、修了時に修士（芸術）＝Master of Fine Arts（MFA）の学位が授与されます。

- ① 2年以上在学し、上記科目のうちから30単位以上を修得する
- ② 「アート思考特論（4単位）」を含むアート思考科目部門の中から8単位以上を修得する
- ③ 制作及び副論文（8,000字以上）を提出する ※ 制作についての詳細はp25を参照してください。

4 音楽芸術専攻

科目名	単位数
【A：理論部門】	
音楽芸術特論Ⅰ	2
音楽芸術特論Ⅱ	2
音楽芸術特論Ⅲ	2
音楽芸術特論Ⅳ	2
西洋音楽史特論Ⅰ	2
西洋音楽史特論Ⅱ	2
情報音楽特論Ⅰ	2
情報音楽特論Ⅱ	2
音楽教育特論Ⅰ	2
音楽教育特論Ⅱ	2
音楽心理学特論Ⅰ	2
音楽心理学特論Ⅱ	2
音響心理学特論Ⅰ	2
音響心理学特論Ⅱ	2
音楽文献原典講読Ⅰ	2
音楽文献原典講読Ⅱ	2
【B：演習・実習部門】	
作曲特殊研究A	2
作曲特殊研究B	2
声楽特殊研究A	2
声楽特殊研究B	2
器楽特殊研究A	2
器楽特殊研究B	2
音楽学特殊研究A	2
音楽学特殊研究B	2
音楽教育特殊研究A	2
音楽教育特殊研究B	2
情報音楽特殊研究A	2
情報音楽特殊研究B	2
音楽研究法Ⅰ	2
音楽研究法Ⅱ	2
音楽表現研究Ⅰ	2
音楽表現研究Ⅱ	2
音楽作品研究	2
指揮研究	2
演奏会制作	2
音響創造研究	2
サウンドレコーディング研究	2
【D：連携研究部門】	
連携理論研究Ⅰ・Ⅱ	各2
連携表現研究Ⅰ・Ⅱ	各2

このうちから
指導教員が担
当する4単位を
修得しなけれ
ばならない

科目名	単位数
【C：関連領域部門】	
芸術学特論	④
リサーチ特殊研究Ⅰ	2
リサーチ特殊研究Ⅱ	2
造形特論Ⅰ	2
造形特論Ⅱ	2
映像特論Ⅰ	2
映像特論Ⅱ	2
映像音響特論Ⅰ	2
映像音響特論Ⅱ	2
放送史特論Ⅰ	2
放送史特論Ⅱ	2
演劇学特論Ⅰ	2
演劇学特論Ⅱ	2
舞踊学特論Ⅰ	2
舞踊学特論Ⅱ	2
芸能学特論Ⅰ	2
芸能学特論Ⅱ	2
日本美術史特論Ⅰ	2
日本美術史特論Ⅱ	2
西洋美術史特論Ⅰ	2
西洋美術史特論Ⅱ	2
文芸史特論Ⅰ	2
文芸史特論Ⅱ	2
哲学特論Ⅰ	2
哲学特論Ⅱ	2
デジタル特論Ⅰ	2
デジタル特論Ⅱ	2
東洋美術史特論	2
工芸史特論	2
建築史特論	2
現代美術特論	2
【E：アート思考科目部門】	
アート思考特論	④
アート思考論Ⅰ	2
アート思考論Ⅱ	2
アート思考研究Ⅰ	1
アート思考研究Ⅱ	1
アート思考研究Ⅲ	1
アート思考研究Ⅳ	1
アート思考研究Ⅴ	1

○修了要件○

論文コース

以下の要件を満たした場合、修了時に修士（芸術学）＝Master of Arts（MA）の学位が授与されます。

- ① 2年以上在学し、上記科目のうちから「芸術学特論（4単位）」含む30単位以上修得する
- ② 修士論文（40,000字以上）を提出する。

制作・作品コース

以下の要件を満たした場合、修了時に修士（芸術）＝Master of Fine Arts（MFA）の学位が授与されます。

- ① 2年以上在学し、上記科目のうちから30単位以上を修得する
- ② 「アート思考特論（4単位）」を含むアート思考科目部門の中から8単位以上を修得する
- ③ 専攻分野ごとに課された作品（演奏含む）や制作物及びそれに関する副論文（12,000字以上）を提出する

5 舞台芸術専攻

科目名	単位数
【A：理論・歴史部門】	
舞台芸術特論Ⅰ	2
舞台芸術特論Ⅱ	2
演劇学特論Ⅰ	2
演劇学特論Ⅱ	2
舞踊学特論Ⅰ	2
舞踊学特論Ⅱ	2
芸能学特論Ⅰ	2
芸能学特論Ⅱ	2
演劇学特論Ⅲ	2
演劇学特論Ⅳ	2
演劇学特論Ⅴ	2
演劇学特論Ⅵ	2
演劇学特論Ⅶ	2
演劇学特論Ⅷ	2
演劇学特論Ⅸ	2
演劇学特論Ⅹ	2
【B：演習・実習部門】	
身体表現実習Ⅰ	2
身体表現実習Ⅱ	2
身体表現研究Ⅰ	2
身体表現研究Ⅱ	2
身体表現研究Ⅲ	2
舞台表現研究Ⅰ	2
舞台表現研究Ⅱ	2
応用表現研究Ⅰ	2
応用表現研究Ⅱ	2
舞台芸術研究A	2
舞台芸術研究B	2
【D：連携研究部門】	
連携理論研究Ⅰ・Ⅱ	各2
連携表現研究Ⅰ・Ⅱ	各2

このうちから指導
教員が担当する
4単位を修得しな
ければならない

科目名	単位数
【C：関連領域部門】	
芸術学特論	④
リサーチ特殊研究Ⅰ	2
リサーチ特殊研究Ⅱ	2
メディア論Ⅰ	2
メディア論Ⅱ	2
映像特論Ⅰ	2
映像特論Ⅱ	2
造形特論Ⅰ	2
造形特論Ⅱ	2
音楽芸術特論Ⅰ	2
音楽芸術特論Ⅱ	2
音楽芸術特論Ⅲ	2
音楽芸術特論Ⅳ	2
映画史特論Ⅰ	2
映画史特論Ⅱ	2
放送史特論Ⅰ	2
放送史特論Ⅱ	2
映像音響特論Ⅰ	2
映像音響特論Ⅱ	2
デジタル特論Ⅰ	2
デジタル特論Ⅱ	2
東洋美術史特論	2
工芸史特論	2
建築史特論	2
現代美術特論	2
音響心理学特論Ⅰ	2
音響心理学特論Ⅱ	2
【E：アート思考科目部門】	
アート思考特論	④
アート思考論Ⅰ	2
アート思考論Ⅱ	2
アート思考研究Ⅰ	1
アート思考研究Ⅱ	1
アート思考研究Ⅲ	1
アート思考研究Ⅳ	1
アート思考研究Ⅴ	1

○修了要件○

論文コース

以下の要件を満たした場合、修了時に修士（芸術学）＝Master of Arts（MA）の学位が授与されます。

- ① 2年以上在学し、上記科目のうちから「芸術学特論（4単位）」含む30単位以上修得する
- ② 修士論文（40,000字以上）を提出する。

制作・作品コース

以下の要件を満たした場合、修了時に修士（芸術）＝Master of Fine Arts（MFA）の学位が授与されます。

- ① 2年以上在学し、上記科目のうちから30単位以上を修得する
- ② 「アート思考特論（4単位）」を含むアート思考科目部門の中から8単位以上を修得する
- ③ 制作及び副論文（12,000字以上）を提出する

大学院芸術学研究科博士前期課程 修士論文・作品・制作作成規定

・修士論文・作品・制作作成規定（令和8年度以降入学者）

取得学位		修士（芸術）＝ Master of Fine Arts	修士（芸術学）＝ Master of Arts
専攻	分野	作品・制作および副論文概要	論文概要
文芸学		作品（40,000字以上）及び副論文（12,000字以上）提出 作品、副論文いずれも要旨（600字程度）を付けること	論文（40,000字以上）提出 論文の要旨（600字程度）を付けること
映像芸術		作品（次のいずれか）提出 ① 写真 1テーマ20点以上のプリント サイズはA3判、あるいは11×14インチ判相当とし16×20のブックマットに装丁し、16×20インチのストレージボックスに入れて提出。古典・特殊技法等のサイズについては別途指示する ② 映像作品 ビデオ、フィルム等の各種フォーマットについては、担当教員と相談のこと。映画倫理規程等をはじめ各種法規を遵守すること。 ③ マルチイメージ プロジェクション・コントロール情報、画面配置設計図も提出 既存のスクリーンサイズを逸脱する場合のスクリーン制作は自己負担とする ④ インスタレーション 画面配置図も提出 立体構成等の状況設定は自己負担とする ⑤ シナリオ 換算枚数二百字200枚以上 ⑥ 音響作品 フォーマットは担当教員と相談のこと 上記①～⑥いずれの場合も副論文（12,000字以上）提出	論文（40,000字以上）提出
造形芸術	絵画 版画 彫刻 地域芸術	制作及び副論文（8,000字以上）提出 地域芸術分野のみ実践活動および副論文（8,000字以上）提出	論文（80,000字以上）提出
	C D I D A D	制作及び副論文（8,000字以上）提出	論文（80,000字以上）提出
	造形理論		論文（80,000字以上）提出
音楽芸術	音楽教育 音楽学 情報音楽 作曲 器楽 声楽	専攻分野ごとに課された作品（演奏も含む）や制作物及びそれに関する副論文（1,2000字以上）提出 （各分野ごとの内容等については入学後に指示する）	論文（40,000字以上）提出
舞台芸術		制作及び副論文（12,000字以上）提出	論文（40,000字以上）提出

※ 上記の規定は2025年5月時点のものです。今後変更が生じる可能性があります。

科目名	単位数
【A：理論・歴史研究領域】	
芸術学特殊研究	②
映像理論特殊研究	2
写真史特殊研究	2
映画史特殊研究	2
写真技術特殊研究	2
映像技術特殊研究	2
造形理論特殊研究	2
美術史特殊研究	2
デザイン史特殊研究	2
文芸理論特殊研究	2
文芸史特殊研究	2
舞台芸術理論特殊研究	2
演劇史特殊研究	2
メディア・コミュニケーション特殊研究	2
音楽理論特殊研究	2
音楽史特殊研究	2
芸術教育特殊研究	
【B：表現研究領域】	
映像表現特別研究	2
造形表現特別研究	2
文芸表現特別研究	2
舞台表現特別研究	2
音楽表現特別研究	2
【C：特定研究領域】	
芸術研究特別演習	④

○修了要件○

- ① 3年以上在学し、「A理論・歴史研究領域」から必修科目含め4単位以上、「B表現研究領域」から2単位以上及び「C特定領域」4単位の合計10単位以上を修得する
- ② 学位論文を提出し、最終審査及び試験に合格する

1 2026年度(令和8年度)入学者 入学金・授業料等納入金一覧

課程・専攻		納入区分	入学金 (入学時のみ)	授業料	施設設備資金	実験実習料	校友会費 【準会員】	前学期 計 後学期 計	初年度 年 額	2年次以降 年 額
博士 前期課程	文芸学	入学手続時(前学期)納入金	200,000	300,000	100,000	20,000	10,000	630,000	1,050,000	850,000
		後学期納入金	—	300,000	100,000	20,000	—	420,000		
	映像芸術	入学手続時(前学期)納入金	200,000	340,000	100,000	50,000	10,000	700,000	1,190,000	990,000
		後学期納入金	—	340,000	100,000	50,000	—	490,000		
	造形芸術	入学手続時(前学期)納入金	200,000	355,000	100,000	45,000	10,000	710,000	1,210,000	1,010,000
		後学期納入金	—	355,000	100,000	45,000	—	500,000		
	音楽芸術	入学手続時(前学期)納入金	200,000	355,000	100,000	55,000	10,000	720,000	1,230,000	1,030,000
		後学期納入金	—	355,000	100,000	55,000	—	510,000		
	舞台芸術	入学手続時(前学期)納入金	200,000	340,000	100,000	35,000	10,000	685,000	1,160,000	960,000
		後学期納入金	—	340,000	100,000	35,000	—	475,000		
博士 後期課程	芸術	入学手続時(前学期)納入金	200,000	350,000	100,000	—	10,000	660,000	1,110,000	910,000
		後学期納入金	—	350,000	100,000	—	—	450,000		

※修了予定年度の後学期に校友会正会員費初年度分として 10,000 円を代理徴収いたします。

2 2026年度(令和8年度)大学院芸術学研究科入学者の授業校舎

小竹向原駅
徒歩約 11 分

江古田キャンパス

(西池袋線)

江古田駅
徒歩約 1 分

池袋駅 (6 分)

(都営地下鉄大江戸線)

新江古田駅
徒歩約 9 分

新宿駅 (20 分)

東京オペラシティ
アートギャラリー

渋谷駅 (26 分)

六本木駅 (25 分)

(JR 山手線)

上野駅 (30 分)

秋葉原駅 (30 分)

東京駅 (30 分)

国立西洋美術館

国立新美術館

(有楽町線)

(東京メトロ丸の内線)

(東京メトロ副都心線)

東京芸術劇場

() は江古田駅から各駅への所要時間
※六本木駅は新江古田駅から

V 2026年度（令和8年度）芸術学研究科研究指導教授一覧

1 博士前期課程研究指導教授一覧

専攻	分野	教員氏名	指導コース
文芸学		青 木 敬 士	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		上 田 薫	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		久 保 陽 子	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		ジュリアン マニング	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		ソコロワ山下聖美	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		谷 村 順 一	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		楊 逸	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
映像芸術	写真	秋 元 貴美子	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		佐 藤 英 裕	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
	映画	大 谷 尚 子	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		奥 野 邦 利	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		上 倉 泉	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		齊 藤 裕 人	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		清 水 和 貴	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		志 村 三代子	論文(MA)コース
		玉 木 則 順	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		増 田 治 宏	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		安 部 裕	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
	放送	茅 原 良 平	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		小 林 偉	制作・作品(MFA)コース
		中 町 綾 子	論文(MA)コース
造形芸術	絵画	福 島 唯 史	制作・作品コース(MFA)
	版画	笹 井 祐 子	制作・作品コース(MFA)
	彫刻/地域芸術	鞍 掛 純 一	制作・作品コース(MFA)
	コミュニケーションデザイン	池 田 光 宏	制作・作品コース(MFA)
		笠 井 則 幸	制作・作品コース(MFA)
	インダストリアルデザイン	佐 藤 徹	制作・作品コース(MFA)
		長 瀬 浩 明	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
	建築デザイン	若 原 一 貴	制作・作品コース(MFA)
	造形理論	田 中 修 二	論文(MA)コース
		山 本 守 和	論文(MA)コース
音楽芸術	作曲/音楽学	伊 藤 弘 之	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
	声楽	高 久 暁	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
	器楽	萩 原 貴 子	制作・作品コース(MFA)
		脇 岡 洋 平	制作・作品コース(MFA)
	音楽教育	大 寺 雅 子	論文(MA)コース
	情報音楽	川 上 央	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		三 戸 勇 気	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
舞台芸術		奥 山 緑	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		小 沢 徹	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		小 林 直 弥	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		櫻 井 敏	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		中 野 成 樹	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース
		松 永 雅 彦	論文(MA)コース / 制作・作品(MFA)コース

◎ 各教員の専門領域の詳細は芸術学研究科ホームページ等を参照してください。

◎ 上表の内容は2025年5月現在のものです。今後、変更が生じる可能性があります。

2 博士後期課程研究指導教授一覧

研究指導領域	教員氏名
文 芸	上 田 薫
	ソコロワ山下聖美
	楊 逸
映 像	奥 野 邦 利
	上 倉 泉
	齊 藤 裕 人
	志 村 三代子
	中 町 綾 子

研究指導領域	教員氏名
造 形	福 島 唯 史
	笹 井 祐 子
	鞍 掛 純 一
	田 中 修 二
	笠 井 則 幸
	佐 藤 徹
音 楽	長 瀬 浩 明
	伊 藤 弘 之
	萩 原 貴 子
舞 台	川 上 央
	小 林 直 弥

- ◎ 各教員の専門領域の詳細は芸術学研究科ホームページ等を参照してください。
- ◎ 上表の内容は2025年5月現在のものです。今後、変更が生じる可能性があります。

【問い合わせ先】

日本大学芸術学部(芸術学研究科)教務課大学院係

〒176-8525

東京都練馬区旭丘 2-42-1

TEL : 03-5995-8202

Email: art.graduateschool@nihon-u.ac.jp



(事務取扱時間)

月曜日～金曜日 9:00～17:00

土曜日 9:00～12:00

日本大学芸術学研究科ホームページ